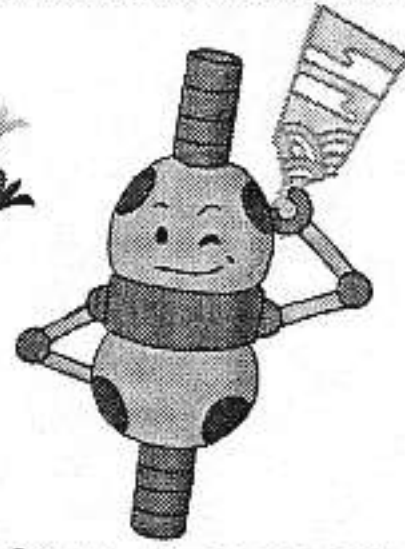


あけまして
おめでとう
ございます!



〒980-0823 仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-1
TEL 022-222-6694 FAX 022-216-4464
E-mail voice@astro.sendai-c.ed.jp
URL <http://www.astro.sendai-c.ed.jp>

天文台INFORMATION 1~2月

★ 星を見る会 19:30~21:00 (晴天時) ★
★ 1月5日(金)…冬の星めぐり ★
★ 1月19日(金)…冬の星雲・星団めぐり ★
★ 2月2日(金)…月と土星を見よう ★
★ 2月16日(金)…土星と冬の星たち ★

★ ベガ号による星を見る会 19:00~21:00 (晴天時) ★
★ 1月26日(金) } 勾当台公園 ★
★ 2月23日(金) }

直接会場までお越しください!
(予約の必要はありません)



星を見る会の「イチオシ」天体 ~オリオン大星雲M42~

この時期の一番のお勧めは、オリオン大星雲M42です。この星雲は地球から約1500光年のところにあり、この内部では新しい星が誕生しています。天文台の41cm反射望遠鏡で見ると、緑みがかったガスの塊と、その中に生まれて間もない「トラペジウム」の星たちが見られます。これらの光が大気のいたずらによって揺らいでいる様子は、天体望遠鏡で覗いた時にだけ楽しめるもの。現在はインターネットの普及で世界の大望遠鏡が捉えた画像を自宅で見られる様になりましたが、それでも天体望遠鏡で直に覗いた時の感動は、味わえません。防寒をしっかりと行い、星を見る会で冬の天体たちを楽しんでみませんか。(Toshi)

41cm
反射望遠鏡

第2日曜日
プラネットの日!

プラネくとあそぼう! ~星のお話と「ちきゅうをさがせ!」~

1月14日(日)・2月11日(日) 各日 ① 10:30~11:15
② 11:30~12:15

「わくせい」をさがすピカちゃん・タッキー・ハカセは、ポコポコ星からたいよう系へ。たいよう系で生きものいる星をさがしていると...

ピカちゃん・ハカセ・タッキー



ポコポコぼし



パイポアくん



かいぼうせい

ぼうえんきょうができてから
ほっけんされた星たち
だよ!



てんとうせい



うさわみん!

カラーニくん



大きなわが
とせい

まぐいほしままきよう!



ローパンちゃん



かせい



あいちちゃん



ちきゅう



★ 星空 めも	○ 満月	1/ 3	2/ 2
	◐ 下弦	1/11	2/10
	● 新月	1/19	2/18
	◑ 上弦	1/26	2/24

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

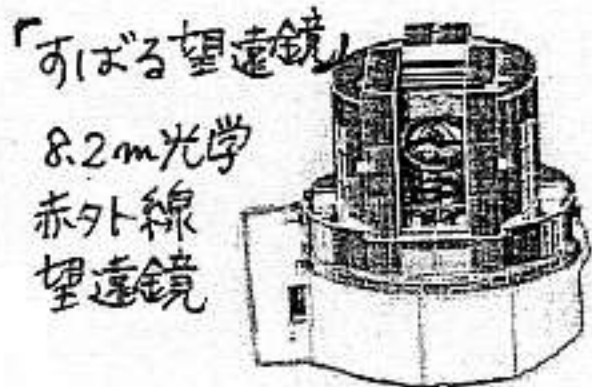
☐ お休みの日

■ プラネタリウムだけお休みの日

枕草子には、清少納言が一条天皇の中宮定子に仕えた頃の宮中の様子、人々の様子、自然や身のまわりでおこる様々な事柄がセンスあふれる言葉で書き綴られています。
日本が世界に誇る望遠鏡には、清少納言が星の中で一番よいと言った「すばる」の名前がつけられています。

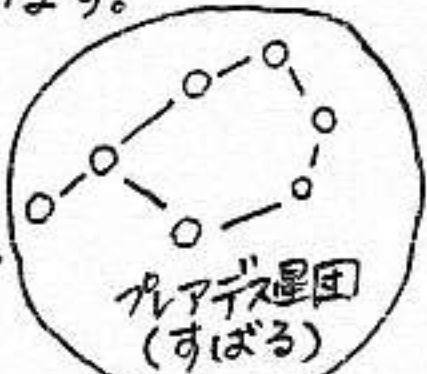


アイム清少納言。
歌人・清原元輔の娘。
生きていた時代は平安時代
966~1025年頃
特技・和歌、漢文。
主な作品「清少納言集」
「枕草子」



「すばる望遠鏡」
8.2m光学
赤外線
望遠鏡

より遠くを見よう、もっと多くを知ろう。
人類の夢にすばる望遠鏡は
挑戦を挑んでいます。



「枕草子第236段 星は」

星はすばる。
彦星。タヅツ。よばひ星すこしをかし、
をだになからましかばまして。
(星はすばるが一番素敵。彦星宵の明星もね。
流れ星は、ちっと音高が低く、尾が短くすばるよりいいね！)

『清少納言の宇宙』は仙台市天文台オリジナル
市民のみなさんと国立天文台の協力でできた
番組です!!
ナレーション 高橋賢市さん 音楽 高橋泉さん
伊藤富士子さん 磯村淳さん
イラスト 小金澤文彦さん 画像提供 国立天文台

ハナティーのこくばん

この季節は日の入り後しばらくすると、東の空にオリオン座を見つけることができます。オリオン座は1等星が2つ・2等星が5つもあり、さらに特徴的な星並びをしていることもありとても分かりやすい星座です。オリオン座を見ていると、1等星のそれぞれの恒星の色が異なることに気づくでしょうか。赤みがかって見えている恒星がベテルギウス、青白く見えている恒星がリゲルです。なぜ、色の異なる恒星があるのでしょうか。

私たちが見ている色は、電磁波の中の可視光線の部分だけを見えています。電磁波の仲間には、紫外線や赤外線、X線などがあります(下図参照)が、人の目で見るができるのは、可視光線だけになります。電磁波は波の性質をもっているため波長があります。可視光線よりも波長が長くなると赤外線に、短くなると紫外線になります。可視光線の中でも波長によって色が異なってきます。波長が長いものから赤色、橙色、黄色、黄緑色、緑色、青色の順に短くなっていきます。また、物体はそのものからも電磁波を出しています。温度の低いものは波長の長い電磁波を、温度の高いものは波長の短い電磁波を出しています。

このことから、赤い恒星はその表面温度が低く(赤色は可視光線の中でも波長が長い)、青白く見える恒星は表面温度が高い(青色は可視光線の中でも波長が短い)ことがわかってきます。オリオン座のベテルギウスは約3000度、リゲルは約12000度の表面温度があります。冬の星空を見ていると多くの明るい星達を見つけることができます。それぞれの恒星の色を比べてみましょう。



Vol.6
『星の色を
比べてみよう!』

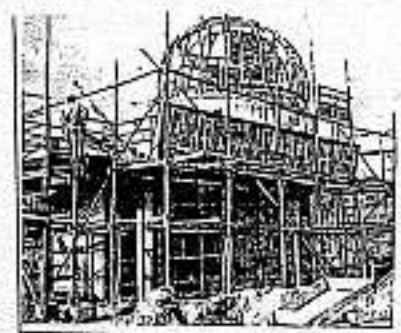
電磁波の種類

γ線	X線	紫外線	可視光線	赤外線	マイクロ波	ラジオ電波	長波
10 ⁻¹¹	10 ⁻¹⁰	10 ⁻⁹	10 ⁻⁸	10 ⁻⁷	10 ⁻⁶	10 ⁻⁵	10 ⁻⁴
10 ⁻³	10 ⁻²	10 ⁻¹	10 ⁰	10 ¹	10 ²	10 ³	10 ⁴
10 ⁵	10 ⁶	波長mm					



since 1955 ~西公園から since 2008 錦ヶ丘へ 『天文台メモリーズ』⑥ ~昭和30年の最先端!?!~』

昭和30年に天文台ができた時、天文台ドームの下の事務室には、当時としてはめずらしい洋式トイレが1つと宿直のための2段ベッドと暗室がっていました。暗室とは、フィルムを現像したり、写真に焼きつけたりする部屋のことです。ドアを開けると現像液など薬品類の一種独特な臭いがかいかにモットロな雰囲気を感じさせます。天文台にとって観測したフィルムを即現像、焼きつけるためにも暗室は必ずなくてはならないもの。また、暗室があったからこそ昭和30年という時代の貴重なスナップが沢山残されたとも言えます。



右側の写真は、その中の1枚。「京都から西村氏がやって来ていよいよドームが立った。昭和29年11月16日」と記されています。撮影者は、天文同好会会員です。同好会員にとっても天文台ができたことは、大きな楽しみだったことでしょう。(hito)

『新天文台だより』... 展示室付近の壁がコンクリート型枠で覆われ、天文台用の型枠工事、メディアセンターの型枠工事も始まっています。

てれすこ〜ぶ... 3年間、天文台のためにがんばってくれた田口直子さんが12月11日(水)で退職されました。新しい環境でもがんばってくださいね!
『天文台では空の楽しみ方を知り、収穫の多い3年間でした。ありがとうございました。(nao)』

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています